

心理学から糖尿病患者のセルフケア行動と精神的健康の維持向上を考える

関連キーワード: 糖尿病, 心理支援, 心理療法, 身体疾患, 慢性疾患

研究内容

<概要>

・心理学の観点から、糖尿病患者のセルフケア行動と精神的健康の維持向上や、心理支援方法について研究しています。

<自己紹介とミッション>

・私自身、17歳のときに1型糖尿病を発症して以降、患者として生活しています。慢性疾患である糖尿病が生涯、病いと共に生きていかざるを得ないのであれば、どのようにより良く共存できるのかを考えたいと思っています。心理学が糖尿病領域に貢献できることはたくさんあります。今はまだ生かされていない心理学の智慧の導入方法を探ったり、未だ解明できていない諸現象を心理学の観点から研究したりしています。それを通して、糖尿病と共に生きる人々の充実した生活と幸福を実現していくのが私のミッションです。

<これまでの研究テーマ>

- ・1型糖尿病患者、2型糖尿病患者を対象にセルフケア行動やソーシャルサポート、精神的健康に関する実証的研究を行ってきました。
- ・研究方法は、これまで面接法によるデータ収集とグランデッド・セオリー・アプローチなどの質的研究、質問紙法による記述統計から推測統計にわたる量的研究、両者を組み合わせた混合研究法を適宜選択して研究しています。
- ・また公認心理師・臨床心理士として、実際の糖尿病の診療科で臨床業務（カウンセリング、心理アセスメント、コンサルテーションなど）をしています。
- ・日々の心理支援業務や担当した事例から、糖尿病の心理支援のあり方、糖尿病患者への効果的な心理学的アプローチについて、臨床経験を体系化する研究に取り組んでいます。

<その他の活動>

- ・1型糖尿病の成人患者会の企画運営をしたり、小児1型糖尿病サマーキャンプの運営に関わっています。

研究者プロフィール

- ・人間科学部心理行動科学科 准教授 東海林 渉
- ・専門分野：健康心理学、臨床心理学
- ・研究分野：糖尿病と生きる人の心理学的研究
- ・所属学会：糖尿病医療学会、日本心理学会、日本心理臨床学会、認知・行動療法学会など
- ・主な著書：「糖尿病者への健康心理学的援助の基礎」「糖尿病者への健康心理学的援助の実際」（分担執筆）（羽鳥健司 編『臨床健康心理学』2017, ナカニシヤ出版）、「健康医療心理学の臨床的展開」（分担執筆）（島井哲志他 編『健康・医療心理学入門 [改訂版]』2020, 有斐閣）など



地域・産学官連携の可能性、事業化のイメージ他

- ・糖尿病患者の心理的特性（糖尿病の感情的負担感、病いの受け入れ、精神的ストレスなど）をアセスメントし、住民健康調査や治療改善のための研究に活用するような事業
- ・心理的安全性を確保したうえで身体慢性疾患と共に生きる人々が交流できる場の構築や企画の策定、運営などの事業
- ・企業が開発したデバイス、医療機器、介入方法などに関する心理的アウトカムの評価と分析（例：適切な心理アウトカムの選定、測定ツールの選定および評価、データ解析など）

研究者への連絡先

連絡先：東海林 渉（しょうじわたる）

Tel: 022-354-8663（個人研究室直通） 022-354-8177（心理学研究室）

E-mail: wshoji@mail.tohoku-gakuin.ac.jp